

義太夫

義太夫協会会報 第 66 号

平成10年1月1日

社団法人 義太夫協会発行

〒104 東京都中央区築地

1-13-5 松竹会館内

TEL (3541) 5471

新年を迎えて

社団法人義太夫協会会長

景 山 正 隆

平成十年、西暦の一九九八年、二十一世紀が目前に迫ってきた感じがします。昨年も世界は多事多端でした。わが国では景氣の回復どころか、汚職、円安、都市銀行の倒産、殺傷事件の低年齢化等々、世相は極めて不安定の様相を呈しています。そうした中で、わが義太夫協会は、何とか無事に新年を迎えることが出来ました。特に一昨年来受賞による慶事が重なった上に、三味線、太夫ともに若手の進境ぶりが注目されました。自信をもって新しい年の活動を展開したいものです。

慶事といえば、昨年の十月、名古屋在住の正会員である豊澤千賀龍さんが、愛知県知

立市文化協会の平成九年度知立文化奨励賞を受賞されました。知立には、芸能史上由緒のある知立神社祭礼に奉納される山車文楽（山車で演じられる三人遣いの人形浄瑠璃）があります。今回の受賞は、千賀龍さんが、昭和五十二年から、義太夫の三味線弾きとして知立文楽に出演されてきたばかりでなく、地元で義太夫の後継者を育てるための知立市義太夫教室の設立に当初から参加され、開講後はその講師として後継者育成に実績を示してこられた業績が高く評価されたものです。地方のことでご存じでない向きもあろうかと思ひますので、ここに紹介しておきます。因みに、

同教室のメンバーの中には義太夫協会の賛助会員もおられます。

私が千賀龍さんの知遇を得てから二十数年になりますが、千賀龍さんの義太夫節のキャリアーは五十年以上の大ベテランで、今回のご受賞はまことによるこぼしく、さっそく表彰式当日義太夫協会会長として式場の知立市中央公民館宛に祝電を打ちました。

千賀龍さんのように地方で活躍している女流義太夫はまだ他にもおられます。そうした地方在住の正会員の方々にも、国立演芸場の演奏会に出演していただく機会があってもよいのではないかと思います。

ところで、千賀龍さんの祝電を打つべく電話の一一五をダイヤルして電文を口頭で言ったところ、オペレーターが私の言った「義太夫」が理解できなかったらしく「ギダユウ? ギダユウは漢字でどう書くのですか?」と、明らかに義太夫が何であるかわからない問い掛けが返ってきました。以前にもある出版社の若い女性が義太夫が何であるかを知らないで唾然としたことがあります。おそらく、電話局やある出版社の女性がたまたま「義太夫」を知らない少数派なのではなく、今の世間一般では、男女を問わずむしろそうした人々のほうが多数派であるということを示唆しているのかも知れません。ことほど左様に、義太夫のみならず伝統芸能は、かなり厳しい社会的環境に取り囲まれているのだと思ひます。

謹賀新年

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます

平成十年一月



社団法人義太夫協会 会長

副会長

常務理事

理事

参与

景山正隆
竹本朝重
竹本駒之助
竹本越道
竹本素八
竹本弥乃太夫
竹本綾一
竹本綾太夫
竹本越孝
竹本越若
竹本土佐恵
竹本土佐子
鶴澤寛也
鶴澤津賀寿
鶴澤友路
豊澤瑩緑
豊澤源平
豊澤幸治
野澤吉平
竹本駒龍
竹本春華
鶴澤駒登久

(五十音順)

お達者ですか

一、竹本越道師の巻

八十五歳の現役太夫

一昨年暮れに体調を崩され一ヵ月半入院されましたが、その後体調は万全、?kgあった体重も48kgと理想的になって、ますます元氣な師匠です。

△越道師△ 皆様明けましておめでとうございます。

私は二月で八十六歳になりますよ。今は十数人の御連中さんと三人の弟子がいます。国立の養成課の竹本講習には第一期生から行っています。

ここところ年のせいと、職業病で言うのでしょかね、手先が痺れるようになって、三味線は何人弾いても大丈夫だったのがままならなくなつて、でもこの間の長月会は弾き語りが出来てほつとしました。(九月末にあった一門の会で、師匠は「合邦(前)」を弾き語りなさいました。)お客様は懐かしいものを見せて下さったと言って、とても喜んでらしたって、よかったです。

三味線はね、十二歳の頃にはお波いで素人さんを何人が弾かせて頂いていましたから。もともと三味線が好きで、周りからも三味線弾きになったらと勧められたんだけど、私若い頃ひどい神経痛でね、それで太夫やってきたんです。十五歳で看板上げ(真打披露)して、その頃日替りで三段ツレ弾きものを出し

てお披露目したんです。だから私は最初から段物ばかり。その時代は御客様が良く知っているものをかけないと喜んで下さらないから。人形ないし。だから二十代には、「紙治」とか「河庄」「酒屋」「酒屋」なんか、もう無理でもなんでもさせて頂きました。

この写真は「演藝画報」に載せて貰ったとき、二十一歳ですか。このときは「紙治」と「酒屋」のお紐を語っていたと思います。

若い頃からそんなものを手がけて、今の年になってやっと自分のものとして語れるようになってきたかなって。もっと先いつてからやります、ではだめな場合もありますね。

あと乙女会(おとめかい)と言って、浅草義太夫芸妓の会があったの。私が浅草生まれですから可愛がつて貰って、私が「阿古屋」の三味線弾かせて貰って、芸妓さんが三曲弾いたこともありました。

昔の三味線弾きで猿昇さんという方がいてね、私より先輩でしたけど、私がこれを語りたいと言ったとき、ご自分が知らないと言の。私に弾き語りして聴かせて下さいと言の。お聴かせしますと、さっと朱を入れて覚えて下さった。私は知らないから弾けませんというのはほとんどなかったですね。

けど意地悪もされましたよ。その頃はだいたい太夫三味線弾きとコンビが決まっていた、三味線弾きさんが都合で出られなくなつて先輩の三味線弾きさんに弾いて下さいとお願ひに行きますとね、快く引き受けて下さる方もいた反面、あなた弾き語り出来るんだからそ

のまま舞台に出たらよいでしょう、と言う方もおられたですね。まあ大勢いたから、誰方が助けて下さって弾いて頂いたものです。そのうちまたやってみたい曲?ありますよ。「妻八(鰻谷)」「湊町」「吉田屋」なんかしばらくかけていませんから、元氣なうちに頑張らせて下さいたいですね。

いくつになっても若い人に囲まれて皆様のお役に立てて、義太夫をやってきてよかったと思います。



昭和三十七年に初のリサイタルを開かれた竹本朝重副会長が十一月一日三十回目を催されました。この大きな節目にあたりまして心に残ること、又現在の心境などを少々インタビューさせて頂きました。

第一回目は？

A 日本橋東急の前身白木屋内の白木ホールで始めました。三十六年前のことです。

エーと、年は二十代の末ですか。

A あとで計算します。なぜそこを申しますと、前年二代目朝重襲名の披露をさせて頂きました特別の思いのあるホールでしたから、ずっとそこで続けて行きたかったのですが、程なく白木ホールはなくなり、二回目は第一証券ホールでした。

ガスホールはいつから？

A 「銀座で義太夫」というのもよいのではないかと考え、場所の判りやすさ、適当な広さなどから三回目からずっとガスホールで致して居ります。

第一回は「楼門」と「壺坂」の掛合、舞踊家の助演を得まして「四季寿」であったと思います。以後多くの方々に助演して頂きました。林屋正蔵師（後に彦六師）、岡本文弥師、狂言をお願いした時もございます。変わったプログラムでは「日本の髪」ですか。博物館の日本の髪型の変遷を受け持った結髪の達人が居られまして、舞台上で「おさん」の髪をアッという間に結って頂き（ハイ、私がです）、その髪で「時雨

炬燵」を語らせて頂くという趣向でした。

その後恩師重造作曲による一連の新作が登場致しました。浜田広介先生原作の「泣いた赤鬼」、人間を越えた鬼の世界の友情物語ですが、重造師の心に深く響いた童話であり、実現出来ました。「貧乏神と福の神」「杜子春」「おしどり」「竜の目の涙」「五ひきのやもり」と続き、「貧乏神」と「竜」の折に芸術祭優秀賞を頂戴致しました。「おしどり」再演を最後に重造師匠は病に伏され他界されました。「高瀬舟」「地獄変」など物語を始めしたのはその後です。

A 三十六年間続けてこられたわけは？

A 自分自身は誠に微力なものであると思っています。恩師を始め実に多くの御方々に支えられての現在の自分と常に思っています。

この度つとめさせて頂きました「九段目」は、重造師がその稽古の途中で倒れられ、その後教えを受けた土佐廣師も同じ「九段目」の稽古半ばにして亡くなされました。こうして大切な師を二人ながら失った私は「九段目」に自分自身で封印を致しました。もちろんどんな様かに教えを仰がねば出来ぬものですが、この種の恐れを抱きながらお稽古をお願いするわけにはいかないと思っただからです。その後有難い御縁が出来、淡路島の友路師の許へ初めてお伺い致しました時、この本をお持ちなさいと下さった御本は、六世友次郎師のお名前入った「九段目」の御本だったのです。その時、大切な師匠を二人までも「九段目」稽古中に失っ

たお話をし、勿体ないことですがこのお稽古をお願いする訳にはまいりませんので、この御本は頂戴出来ません旨申し上げました。「まあ手元にお置きなさい」と友路師は御本を私に渡されました。昨年体調を崩しリサイタルを見送った私がこの度長年の夢、三十回記念の会を開くに当たり、語りもののご相談を申し上げますと、友路師は「九段目」とおっしゃって下さったのです。それは命がけでもかまわない、覚えなさい、語りなさい、というお心ではありませんか。（しばし沈黙。インタビュアーもジーンとなる。）重造師、土佐廣師の御縁からめぐり逢えた友路師の深い慈悲心によって「山科閑居」をつとめさせて頂く事が出来ました。有難さに涙が止まりませんでした。

有り難うございました。

三十回目のリサイタル、そして一筋に義太夫を続けてこられた蔭に、朝重副会長の努力と誠と真実と熱意を感じないわけにはいきませんでした。

（聞き手 K）

教室ライブ

義太夫協会が初心者向けに行っている歴史ある義太夫教室も今年50期を迎え、新しい試みとして学期を三つに分け、従来の講義、語りと三味線の実技の他に、教室ライブというものも設けました。現在までに一学期に、寛也・駒治・津賀寿による「三味線のあれこれ」、二学期に、土佐恵・越若・駒輝・喜恵博による「太夫が舞台上上がるまで」が実施されました。その様子を少しご紹介します。

一学期の「三味線のあれこれ」は、三曲合奏（琴・胡弓との合奏）として「阿古屋琴責め」、琵琶を表現したもの、曲弾きとして「七福神」よりそれぞれ解説をまじえて演奏し、最後に三人が主催する勉強会「びこばえ」で発表した、三味線弾きのトレーニングを集めた「腕固め組曲」を演奏して、太棹の三味線が、太夫の語りとともにいかに精一杯の力をこめて演奏するかということを紹介しました。

二学期は、土佐恵さんの構成、黒衣姿の越若さんの楽しい解説によって進行、駒輝さんがモデルとなり、着付けの解説から肩衣をつけるところの実演、見台や七兵衛について、そして、口上アラカルトとしてさまざまな口上のパターンを三人の太夫さんが実演。思わず拍手がわいたり、いきなりの口上で次につながるものがわからなくなって笑いがおこったり、質問が出たりと、充実した一時間で、終了後も見台や肩衣のまわりに集まって、皆興味深

げでした。

今年の義太夫教室は、はじめは例年より受講者が少ないようでしたが、二学期（例年という中級）でやめる方が例年と違って一人もなく、二学期からの入学の方も数人あり、授業態度は大変熱心。お互いが私語をかわすことも少なく、ライブの時もくいているように見聴きして下さった、という印象です。若い実演者の生の声をお聞き頂いて、義太夫を少しでも身近に感じて頂くとういうこの企画は、これからの義太夫教室でも是非取り入れて頂きたいと思います。OB、OGの見学も大歓迎ですので、機会があれば皆さんものぞいてみて下さい。

(T)



〈お知らせ〉

江戸時代から現代までの女義の歴史が出版されることになりました。書いたのは、長らく義太夫協会の事務局員だった水野悠子さん。中央公論社の新書（タイトル・価格は未定）として四月に発売されるそうです。

義太夫協会相談役高野俊雄氏が一義会という後援会を発足。

文京区春日のマンションの一室を一義会専用として使用させていただけることになりました。

〈事務局より〉

前号でご紹介した新職員の松田が、わずか八ヶ月で退職致しました。三十人も応募してくれたのに、健康上の理由とはいえ、落とされた二十九人に対しても：言葉がありません。新人が慣れるまで三ヶ月ほどということを手伝っていた素丸が、とりあえず代行することになりました。パソコンお助け嬢の越若さんと、寸暇を惜しんで手伝ってくれるたくましい若手たちの手を借り、ピンチを切り抜けるべく頑張る毎日です。

〈逝去〉

(賛) 高野喜代子 H 8 (H 9、8月連絡)

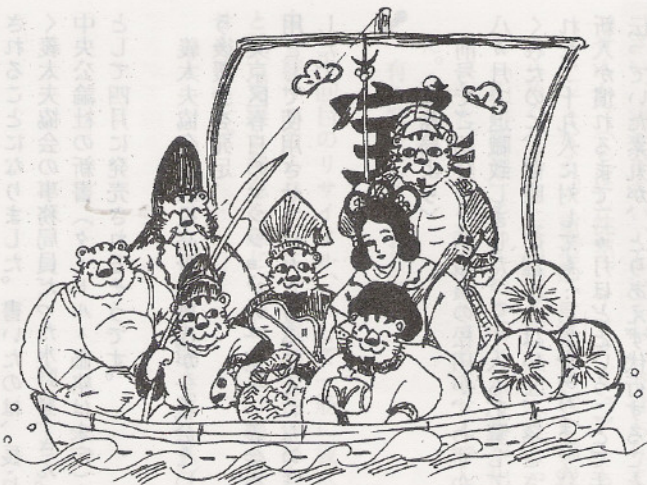
協会の動き

〔平成九年度〕

7月22日	女流義太夫演奏会「加賀見山旧錦絵」特集 於国立演芸場	9月23日	女流義太夫演奏会「伊勢音頭恋寝刃」他 於回向院
8月1日	第2回上野広小路亭「じよぎ」公演 於上野広小路亭（二日間）	9月24日	平成9年度東京都文化財保存事業費補助金交付申請書提出 於国立演芸場
8月2日	研修部会	9月26日	竹本越道一門勉強会第二回「長月会」（義太夫協会後援、新日鐵文化財団助成） 於上野広小路亭
8月12日	平成9年度芸術文化振興基金助成金交付決定通知 於演舞場スペースアルファ	9月29日	普及部会 於松竹しゃとー
8月14日	平成9年度芸術文化振興基金助成金支払申請書提出 於国立演芸場	10月1日	芸団協助成金交付決定通知（9／30付） 第3回上野広小路亭「じよぎ」公演 於上野広小路亭（二日間）
8月22日	公演部会 女流義太夫演奏会「若手勉強会」 於国立演芸場	10月2日	演 於上野広小路亭（二日間）
8月22日	女流義太夫演奏会「若手勉強会」 於国立演芸場	10月13日	平成9年度東京都文化財保存事業費補助金交付決定通知（10／9付） 平成8年度事業報告及び収支決算の届出提出 女流義太夫演奏会「恋女房染分手綱」他 於国立演芸場
8月25日	義太夫教室第50期一学期終了 17名皆勤 於演舞場スペースアルファ	10月22日	女流義太夫演奏会「恋女房染分手綱」他 於国立演芸場
8月29日	義太夫節保存会、文化財保存事業費補助金交付決定通知 義太夫節保存会、平成9年度文化財保存事業費補助対象事業の内定 義太夫教室第50期二学期開講 於演舞場スペースアルファ	11月7日	常務理事会 於サロン・ド・サンク
9月1日	義太夫教室第50期二学期開講 於演舞場スペースアルファ	7日	平成9年度事業計画及び収支予算の届出提出 事務局松田退職 女流義太夫演奏会「摂州合邦辻」他 於国立演芸場
9月15日	祖先祭 初代竹本義太夫はじめ義太夫関係諸先輩の墓参ならびに法	11月20日	事務局松田退職
11月21日	女流義太夫演奏会「摂州合邦辻」他 於国立演芸場		

'97 '97
年 7 月より
年 12 月まで

要



ながき夜のとほり舟おとよまかへ

11月25日	普及部会 於さらしな
11月25日	編集部会 於協会事務所
11月26日	理事会 於サロン・ド・サンク
11月27日	「芸能花舞台」収録 於NHK一〇四スタジオ
12月1日	第4回上野広小路亭「じよぎ」公演 於上野広小路亭（二日間） 於協会事務所
12月2日	演
12月5日	編集部会
12月7日	公演部会

△これからの予定▽

*OB演奏会

二月二十八日(土) 東京証券会館ホール
(茅場町) 十二時開演予定
義太夫教室現在受講50期生の卒業発表と
諸先輩たちの演奏。

入場無料

*じよぎ公演(上野広小路亭)

平成十年公演予定
三月一・二日 五月一・二日
七月一・二日 九月一・二日
十一月一・二日

*東京都邦楽連合会

三月七日(土) 朝日生命ホール(新宿)
△昼の部▽ 正午開演

近頃河原の達引 堀川猿廻しの段〈前〉

浄瑠璃 竹本素八
三味線 豊澤源平

△夜の部▽ 四時開演

近頃河原の達引 堀川猿廻しの段〈奥〉

与次郎 竹本駒之助
母 竹本朝重

お俊 竹本綾一
伝兵衛 竹本越孝

三味線 鶴澤津賀寿
ツレ 鶴澤寛也

*第三回駒之助の会

二月八日(日) 紀尾井小ホール

二時開演

関取千両幟 猪名川内の段より櫓太鼓
お話(竹内道敬氏ほか)

*国立演芸場 女流義太夫演奏会

平成十年 一月二十二日(木) 六時半
二月二十二日(日) 一時※

三月二十二日(日) 一時※
四月二十一日(火) 六時半

五月二十二日(金) 六時半
六月二十三日(火) 六時半

七月二十二日(水) 六時半
八月二十一日(金) 六時半

九月二十一日(月) 六時半
十月二十二日(木) 六時半

十一月二十三日(月) 一時※
十二月二十二日(火) 六時半

平成十一年 一月二十二日(金) 六時半
二月二十四日(水) 六時半

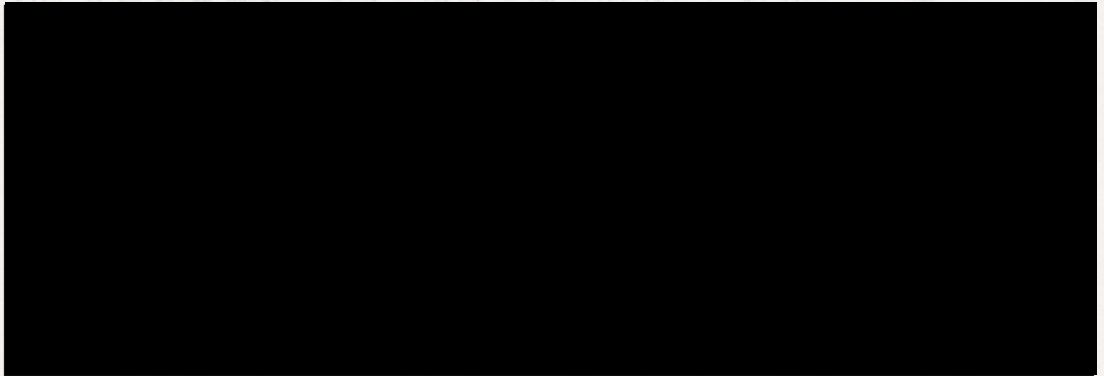
三月二十二日(月) 一時※

月により日程・開演時間が違いますのでご注意下さい。※印は昼間の公演です。
どうぞよろしくお願い申し上げます。



NHK教育TV「芸能花舞台」に出演
「本蔵下屋敷」十一月二十七日無事収録。
十二月十三日(土) 放映でした。写真はなご
やかな収録風景。葛西アナウンサーを囲んで。
なお、十二月二日の上野広小路亭じよぎ公
演の様子も同時に放映されました。

◆◆◆ 住所（住居表示）等変更 ◆◆◆



一日体験教室のご案内

〈語り〉 四月十二日（日） 一時～三時

講師 竹本 綾一

〈三味線〉 四月二十六日（日） 一時～三時

講師 鶴澤 寛也

（写真は教室の風景）



△受賞△

豊澤千賀龍 平成九年度知立文化奨励賞

△寄 贈△

鶴澤宏太郎様 アガリ糸

野澤喜恵博様 宛名ラベル他文具

△寄 付△

和田 博様 一万円

高野俊雄様 一万円

大日本素義会菅野光雄様 三万円

△編集後記▽

○明けておめでとうございます。昨年はいろいろと人手不足に悩まされた一年でしたが、今年こそ協会に救世主が出現するのでしょうか…

○第一回編集会議の席上でKさんの第一声「私、夕べ財布の入ったバッグをタクシーに置き忘れたの」財布は後日、無事に出てきたそうです…

○またまたKさんが帰り際「誰か私の財布知らない？」聞けば今日は回数券とプリペイドカードで来たので、一度も財布を出さなかったとのこと。周りから冷たい声「最初から持ってきてなかったんじゃないの」

（K2）